

二 癘 疾 子 フ ス
 「ソ」 聯 邦 政 府 ハ 産 業 五 年 計 再 實 踐 ノ 劈 頭 二 於
 テ 癘 疾 子 フ ス ハ 我 カ 社 會 主 義 建 設 ノ 最 モ 怖 ル 於
 ヘ キ 敵 ナ リ ト 絶 叫 シ 之 カ 撲 滅 對 策 二 腐 心 シ ア
 リ 蓋 シ 帝 政 露 西 亞 並 「ソ」 聯 邦 ハ 古 來 屢々 本
 病 ノ 流 行 ヲ 反 覆 シ 就 中 戰 争 乃 至 飢 饉 二 隨 伴 シ
 テ 齎 ラ サ レ タ ル 爆 発 的 猖 獗 二 因 リ 其 都 度 國 内
 ヲ 著 シ ク 震 憾 セ シ メ 又 國 力 ノ 衰 微 ヲ 惹 起 シ タ
 シ ハ ナ リ 雖 モ 百 事 ヲ 天 然 二 委 ヌ ル ノ 蠻 風 ハ 今
 日 尚 民 族 的 遺 産 ト シ テ 住 民 二 傳 承 セ ラ レ ア ル
 ヲ 肝 銘 ス ル ト キ 同 一 慘 狀 カ 將 來 再 ヒ 繰 リ 返 サ
 ル ヘ キ ヤ 之 ヲ 首 肯 ス ル 二 難 カ ラ ス

因ミニ歐洲大戰間ニ於ケル獨軍ノ戰線別并
 疹チ「フス」罹患狀況茲露西亞革命戰時代ニ於
 ケル同國々民ノ同病罹患數等ヲ一瞥スレハ左
 如シ

(一) 歐洲大戰ニ於ケル獨軍ノ各戰線別年度別罹患數(兵員每千數)

(二) 國內革命戰當時ニ於ケル國民ノ罹患數

戰線名	戰年次	西 部	東 部	バルカン	土 耳 古
	I (一九一四年)	0、0、1	0、1		
	II (一九一五年)		0、二九	0、九	三、七
	III (一九一六年)		0、四三	0、九四	一〇、九
	IV (一九一七年)	0、0、二	0、九	0、八一	五、一
一九一八年 十二月(ヶ月間)			五、〇	三、八	六
一九一九年 (一ヶ月間)			三、二	二、九	九七
一九二〇年 (ヶ月間)			四九三、〇	一七	一

(三) 自一九一八年
至一九二〇年ノ
季節別罹患者數

冬	秋	夏	春	季節別
十一月 十二月	十月 十一月	八月 七月 六月	五月 四月 三月	月
月 月 月	月 月 月	月 月 月	月 月 月	別
七、三、四、六、二、七	一、七、四、八、九、七	一、〇、三、六、九、六	五、七、六、〇、一、〇	罹患者數
三、二、七、三、二、〇	一、〇、二、三、六、〇、五、八	二、〇、七、〇、二、九、二	六、九、二、四、三、四	(發數)
六、五、二、九、一、三	三、六、〇、七、一、〇	六、七、三、〇、一、六	〇、六、七、〇、六、六	計

(14)

歐洲大戰間及我西伯利出兵時ニ於ケル極東
 地方ノ奔疹子「フ」ス「ク」生概況
 一、一九一五年「ベ」リ「ソ」フ「カ」倭虜收容所ニ七
 百五名一九一六年九月四名ヲ「生」セリ又同年
 「ス」チ「ア」ン「カ」及「ア」ン「テ」イ「ピ」ノ「倭虜」收容
 所ニ於テ夫々流行ヲ見約四〇%ノ「死」率ヲ
 算シ「タ」リ「一」九一八年九月ヨリ十一月ニ亙リ「ザ」バ「イ」
 二、一九一八年九月ヨリ十一月ニ亙リ「ザ」バ「イ」
 カル「地」方ニ流行ヲ見「タ」リ其概況左ノ如シ

計	十一月	十月	九月	月別罹患者數 死亡數 死亡率(%)
一五八四	六一四	四九九	四七二	
一四五	六二	四四	三九	
九、二	一、〇	八、八	八、二	

(五)

極東「ソ領ニ於ケル一九二七年度ノ瘡疹」
患者月別発生概況左ノ如シ

月別罹患者數百分率	一月	二月	三月	四月	五月	六月	計
	七	三五	六三	六六	〇〇	二七	三四七人
月別	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	
罹患者數百分率	一六	四	七	二	四	六	
	四、六	一、二	二、〇	三、四	一、三	一、七	

註 ※印ヲ附シアルハ考數スル月ヲ示ス

備考
 一八二一年「十ポレオン」ハ四万の大軍ヲ率
 ヒテ「ロシア」ニ侵入セシモ「露領」ニ入ルヤ未ダ戦
 ハサルニ其ノ一%餘ヲ忽チ殄チフスノ犠牲
 ニ供シタリ彼ノ露都退却シテ如斯惨害ハ
 タルモ「ナシトセス」然リ而シテ「斯」害ハ
 其ノ由來スル所ヲ「兵衛」生不精緻「防疫」機
 ノ不整備「露西」亜文化ニ對スル「服合性」飲如等
 求ムヘキカ如シ
 茲ニ「日ソ」交戦ノ日ニ於ケル豫想作戦地帯ヲ
 熟察スルニ「住民」ノ文化「歐ソ」地方ニ比シ著シク
 低劣ニシテ平時ニ於テ猶ホ且ツ本病ノ發生四

